

# 辻井遺跡

—第31次発掘調査報告書—

2016

姫路市教育委員会

## 序

姫路市内では、現在 1,200 箇所の遺跡が知られています。近年では、開発工事に伴う発掘調査が急増しており、平成 26 年度では大小合わせて年間約 600 件を数えました。

今回報告する辻井遺跡は、姫路城跡の西約 2km に位置する縄文時代以来長期間にわたって営まれた遺跡です。その発見は、昭和 14 年にさかのぼり、市内で最初にみつかった縄文遺跡として知られています。戦前におこなわれた発掘調査では、縄文時代の人骨が出土するなど注目を集めてきました。しかし、近年は開発の波が押し寄せ、現在では水田に残された辻井廃寺の塔心礎や道路沿いに建てられた「辻井廃寺井戸跡」碑などがその名残を留めているのみです。

今回、辻井遺跡の西端部において発掘調査をおこない、ここにその成果を報告します。地中に眠る辻井遺跡の姿を知る一助になればと思います。

最後に、発掘調査・整理作業の実施にあたり多大なご協力を賜りました株式会社辰己企画、その他関係各位に心から御礼申し上げます。

姫路市教育委員会

教育長 中杉 隆夫

## 例言・凡例

1. 本書は、姫路市辻井五丁目 759 番 3、760 番 1、761 番 1、759 番 1、713 番 1、715 番で実施した辻井遺跡の第 31 次発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、株式会社辰己企画によるドコモショップ姫路辻井店の建設に先立って実施した。
3. 発掘調査は、株式会社辰己企画の委託を受け、姫路市教育委員会が実施した。現地調査及び整理作業、報告書の編集は、姫路市教育委員会 生涯学習部 埋蔵文化財センター 黒田祐介が担当した。
4. 調査区平面図の作成に際しては世界測地系を使用した。そのため、方位は全て座標北である。また、標高は東京湾平均海水準 (T.P.) を基準とした。
5. 土層名は、『新版標準土色帳』(1999 年度版) に準拠した。
6. 本書で使用する遺構番号は、遺構種ごとにつけた。遺構種略号は次のように呼称する。  
掘立柱建物 : SB 棚 : SA ピット : SP 不明 : SX 井戸 : SE 溝 : SD
7. 本書に関わる遺物・写真・図面等は、姫路市埋蔵文化財センターで保管している。
8. 調査及び報告書の作成にあたっては、以下の方々のご援助を頂いた。ここに感謝の意を表したい。

株式会社辰己企画 有限会社松浦興業 辻井自治会

## 現地調査開始から整理作業終了までの体制

### 姫路市教育委員会

教育長 中杉隆夫  
教育次長 林 尚秀 (～平成 27 年 6 月 30 日)  
八木 優 (平成 27 年 7 月 1 日～)

### 生涯学習部

部長 小林直樹 (～平成 27 年 3 月 31 日)  
植原正則 (平成 27 年 7 月 1 日～)

### 文化財課

課長 福永明彦 (～平成 27 年 6 月 30 日)  
花幡和宏 (平成 27 年 7 月 1 日～)  
係長 大谷輝彦

### 埋蔵文化財センター

館長 秋枝 芳  
係長 岡崎政俊  
森 恒裕  
技術主任 小柴治子  
中川 猛  
福井 優  
南 慶和  
技師 黒田祐介  
閑 梓  
主事 小林啓佑  
嘱託職員 香山玲子、田中章子、玉越綾子、野村知子、三輪悠代  
整理補助員 黒岩紀子、清水聖子、寺本祐子、藤村由紀

## 目次

### 第Ⅰ章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 地理的・歴史的環境	1
第3節 既往の調査	1

### 第Ⅱ章 調査の成果

第1節 確認調査の概要	2
第2節 調査区の基本層序	2
第3節 本発掘調査の成果	2

第Ⅲ章 総括	4
--------	---

## 図版目次

図版 1 / 図 1	周辺の主な遺跡	図 2	調査地の位置
図版 2 / 図 3	既往の調査		
図版 3 / 図 4	調査区平面図・遺構断面図		
図版 4 / 図 5	2区北壁土層断面図		

## 写真図版目次

写真図版 1 / 調査区全景			
写真図版 2 / 1区全景	2区北辺全景	2区東辺全景	3-8区全景
写真図版 3 / 2区北壁 SP02周辺基本層序	SB01柱穴検出状況	SB01柱穴完掘状況	
SX06検出状況	SX06土層断面	SE02とSX04	
写真図版 4 / SX03	SE01	SD01	辻井廃寺塔心礎 辻井廃寺井戸跡碑

## 第Ⅰ章 調査に至る経緯と経過

### 第1節 調査に至る経緯

姫路市辻井五丁目 759 番 3、760 番 1、761 番 1、759 番 1、713 番 1、715 番において、株式会社辰己企画による店舗（ドコモショップ姫路辻井店）の建設が計画された。当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である辻井遺跡（県遺跡番号：020162）に該当している。

確認調査を実施した結果、ピット等の遺構を確認した。そのため「姫路市辻井 5 丁目 759 番 3 他における工事に伴う埋蔵文化財（辻井遺跡）発掘調査委託契約（平成 26 年度）」を締結し、本発掘調査を実施することとなった。

本発掘調査の対象面積は 213.44 m<sup>2</sup>で、平成 26 年（2014 年）10 月 24 日から 11 月 5 日の実働 7 日で実施した。遺跡調査番号は「20140335」である。

整理作業と発掘調査報告書の刊行は、平成 27 年（2015 年）4 月 27 日に「姫路市辻井 5 丁目 759 番 3 他における工事に伴う埋蔵文化財（辻井遺跡）発掘調査委託契約（平成 27 年度）」を締結し、平成 27 年度に実施した。

### 第2節 地理的・歴史的環境

辻井遺跡は、姫路城の北西約 2km、姫路市辻井に位置する。夢前川によって形成された沖積平野に立地している。現在では、遺跡の中央を市道幹第 47 号線が横断し、遺跡一帯はそのほとんどが宅地となっている。

辻井遺跡では、これまでに縄文時代中期以降の各時代の遺構が確認されている。また遺跡内には、白鳳寺院である辻井廃寺があり、現在でも水田に塔心礎が残されている。

遺跡の周囲には数多くの遺跡が知られている。縄文時代のものとしては、八代深田遺跡と今宿丁田遺跡が挙げられる。後者では扁平鉢四区袈裟棒文銅鐸の石製錫型が出土し、辻井遺跡の直ぐ東の丘陵に立地する名古山遺跡でも砥石に転用された銅鐸の石製錫型が出土している。

また辻井廃寺との関連では、3km 圏内に平野廃寺・白国廃寺があり、約 4km の距離で市之郷廃寺や近年古代寺院の可能性が高まっている三宅遺跡がある。播磨国府に推定されている本町遺跡も約 3km の距離にある。

### 第3節 既往の調査

今里幾次氏によってサヌカイト製打製石器や縄文土器が採集され、辻井遺跡が縄文時代に遡る遺跡であることが判明したのは、昭和 14 年（1939 年）のことである。

辻井遺跡での発掘調査は、昭和 15 年（1940 年）に実施されたものが最も古く、浅田芳朗氏と今里幾次氏によるものである。この調査で、縄文時代中期後半のものと考えられる屈葬人骨が出土した。その後も昭和 42 年（1967 年）まで断続的に調査がおこなわれているが、それらの経緯等については、今里氏によってまとめられている（今里 1971）。

昭和 45 年（1970 年）頃になると、辻井遺跡へも開発の手が伸びたため、姫路市教育委員会からの依

頼で加藤史郎氏・松本正信氏が辻井遺跡発掘調査団を組織、確認調査を実施した（姫路市教育委員会 1971）。

姫路市教育委員会が直接発掘調査を実施するようになるのは昭和 57 年（1982 年）からである。第 1 次調査は市道幹第 47 号線の築造に伴って実施された。その後の調査は、市道幹第 47 号線築造、民間開発に伴うものの他、辻井廃寺の主要伽藍の確認調査等がある。姫路市教育委員会による調査は、今回報告する調査で 31 次を数える。

## 第Ⅱ章 調査の成果

### 第 1 節 確認調査の概要

確認調査は事業地の北西隅、北東隅、南東隅の 3 箇所、計 16 m<sup>2</sup>を対象に実施した。北西隅の調査区では溝とみられる落ち込みの肩を確認し、南東隅では埋土が黒褐色を呈するピット 1 基を確認した。いずれも遺構に伴う遺物の出土はなかったものの、事業地全域に遺構が分布していることが判明した。

### 第 2 節 調査区の基本層序

基本層序は、各調査区で大きな違いはない。耕土 30cm、旧耕土 20cm を経て、にぶい黄橙色粘質土層に至る。遺構検出面はにぶい黄橙色粘質土層上面で、標高約 19.0m である。なお SP01・SE02 の発掘時に、にぶい黄橙色粘質土層の下に黒褐色粘質土層が堆積している状況がみられた。この箇所でのにぶい黄橙色粘質土層の厚さは約 30cm である。

### 第 3 節 本発掘調査の成果

確認調査の結果から、213.44 m<sup>2</sup>を対象に本発掘調査を実施することとなった。

調査区は水路を挟んだ北側の水田を 1 区、水路南側の逆 L 字の調査区を 2 区、それ以外の独立した調査区を 3~8 区と呼称している。以下では、検出した主な遺構について触れていただきたい。

#### 1. 古代以前

確認したピットの大半では、時期の特定が可能となるような遺物は出土していない。しかし、ピットの埋土が黒褐色等を呈することから古代以前のものと考えられる。大半は深さ 10cm に満たない。SP01 以外は掘方円形である。

SP01 やや不整形な長方形の平面形を有し、長軸約 1m、短軸約 50cm を測る。深さは遺構検出面から約 50cm を測る。出土遺物は小片が大半であるが、頸部に断面三角形の突帯をもつ広口壺等、弥生時代中期（西播磨 IV 期）の遺物が含まれている。

**SB01** 2基の柱穴を確認した。調査区が狭小のため、対になる柱穴列は確認できていない。そのため、構の可能性もある。柱穴は直径約50cmの掘方円形を呈し、深さは約5cmを測る。平面検出時に直径20cmの心を確認でき、完掘後の底面でも同大の円形の変色がみられた。2基の柱穴の心々間距離は5.1mであり、未調査部分に間の柱穴が存在していると考えられる。主軸はほぼ正方位を探る。

**SA01** 3基の柱穴を確認した。柱穴は直径30cmの掘方円形を呈し、深さは10cmに満たない。8区内での柱穴の心々間距離は65cmである。主軸はほぼ正方位を探る。

## 2. 時期不明

時期不明の遺構としてSD02、SX01、SX02、SX03、SX04、SX05、SX06がある。SD02以外はにぶい黄橙色粘質土と黒褐色粘質土のブロック混じりの埋土を持つものが多く、深さ5~10cmと浅い点が共通している。遺物は弥生土器・須恵器・土師器の細片ばかりで、時期を明確に示すものはない。

**SD02** 1区・2区の西端を南北に延びる。確認し得たのは東側の肩のみで規模は不明である。粗い砂で埋まっており、遺物は出土していない。

**SX02~05** 南北方向に延びる。また遺構同士の切り合い関係からはSX04がSE02に切られている状況がみられ、また近世陶磁を含まないことから江戸時代以前の可能性がある。しかし、それ以上の性格・時期を明らかにすることは現状では困難といわざるをえない。

## 3. 近世

**SD01** 石組みを伴う溝である。幅は0.6m以上、深さは遺構検出面から10cmから20cmを測る。石組みは溝の北肩際に構築されており、さらに約10cm南にも列石が認められた。使用されている石材は20cmから40cm大の角礫である。北肩際の石組みは石同士が噛み合っており、南面を描えている。一部2段目まで残存するが、大半は基底石のみである。一方、南側の列石は面が乱れている箇所が多く、石の噛み合わせも悪いことから、北肩際の石組み石材が落ち込んだものの可能性が高い。この溝からは大橋IV期以降の染付磁器碗や瀬戸美濃焼腰錦碗、関西系焼締陶器擂鉢・炮烙等が出土した。それらに混じって、須恵器等が出土した。須恵器には壺、杯がある。杯は高台を伴う杯Bで、口径9.1cm、器高6.9cm、底部径・高台径7.5cm、高台高0.6cmを測る。精良な胎土を持ち、焼成も良好である。

**SE01** 石組みの井戸で内径約80cm、掘方直径約2.0mを測る。深さは不明である。遺構検出面から50cm以下は石積みが残存している。主に長軸30cm、短軸15cmの大角礫が用いられている。染付磁器細片の他、弥生土器壺（西播磨IV期）や楔形石器、須恵器杯蓋等の破片が出土した。

**SE02** 石組みの井戸で内径約60cm、掘方直径約1.8mを測る。深さは不明である。遺構検出面以下の石積みは残存している。主に20cmから30cm大の円礫を使用している。SD01の続きとみられる土層を切っており、またSX04を切る。井戸内からの出土遺物としては、わずかな近世陶磁や瓦が挙げられる。

## 第Ⅲ章 総括

調査地の南、市道幹第47号線築造時の調査（第1次調査）では掘方が方形を志向する掘立柱建物が1棟検出されている。この建物は、主軸を N-2°-W にとり、遺構の切り合い関係から辻井廃寺に先行する時期のものとされる（姫路市 2010）。

今回の調査区でもピットが確認されているが、遺物の出土もほとんどなく、時期の特定は困難である。その中で、前章で触れたように SB01 と SA01 の主軸は先述の掘立柱建物と同様にはば正方位を採用しており、時期特定の手がかりとなるだろう。

また SB01 や SA01 に伴う柱穴が非常に浅いことから、調査地は後世の削平の影響を大きく受けていることが推測される。この削平により失われたであろう遺構に関しては、現状で何ら手がかりを得られていおらず、さらに調査区の形状等による制約から面的に遺構を把握することができていないものの、現状では調査区の遺構密度は遺跡中心部と比較して薄いと判断される。

その他、時期・性格ともに不明の遺構（SX01～06）については、今後の調査の課題としておきたい。

### 【引用・参考文献】

- 今里幾次 1971 『姫路市辻井遺跡—その調査の記録—』 古代播磨研究会  
九州陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年』（九州近世陶磁学会 10周年記念）  
長友朋子・田中元浩 2007 「西播磨地域の土器編年」『弥生土器集成と編年—播磨編—』（大手前大学史学  
研究所オープン・リサーチ・センター研究報告第 5 号） 大手前大学史学研究所  
姫路市 2010 『姫路市史』第七巻下（資料編考古）  
姫路市教育委員会 1971 『辻井遺跡発掘調査報告書』  
姫路市教育委員会 2014 『三宅遺跡発掘調査報告書』（姫路市埋蔵文化財センター調査報告第 18 集）  
姫路市役所 1970 『姫路市史』第 2 卷

図版1

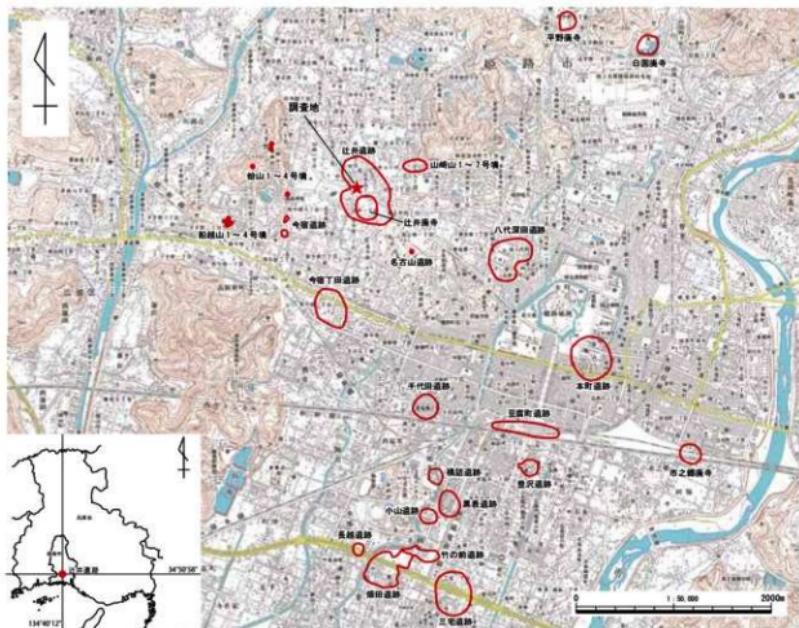


図1 周辺の主な道路 (S=1 : 50,000)

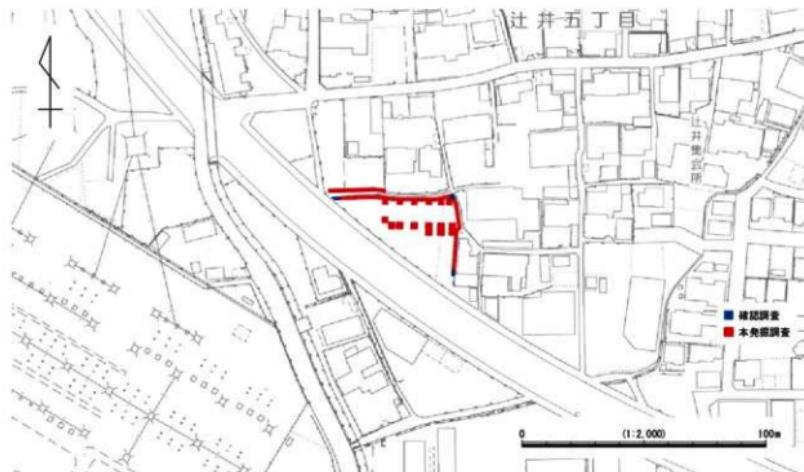


図2 調査地の位置 (S=1 : 2,000)

圖版 2

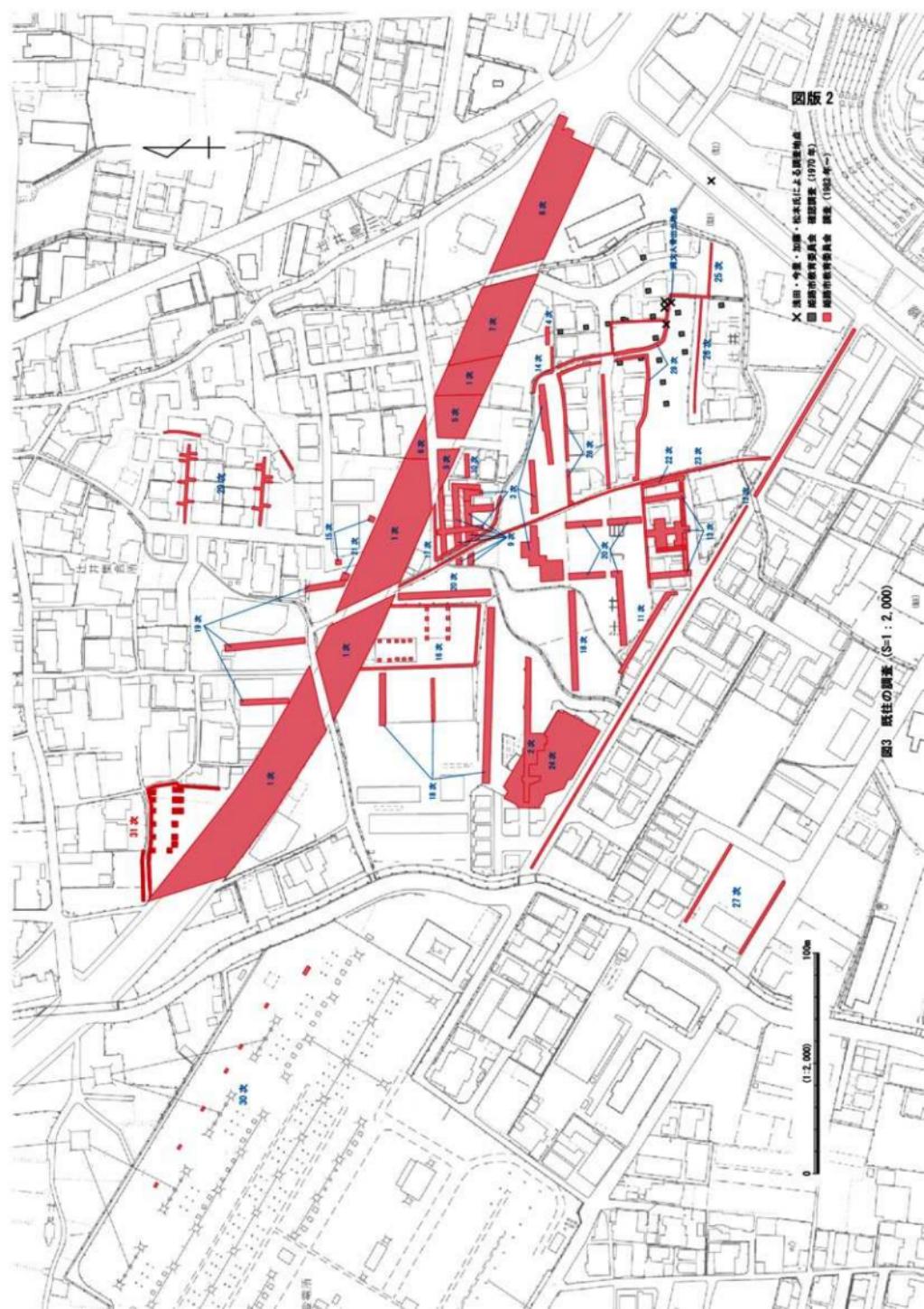


図3 既往の調査 (S=1 : 2,000)

図版3

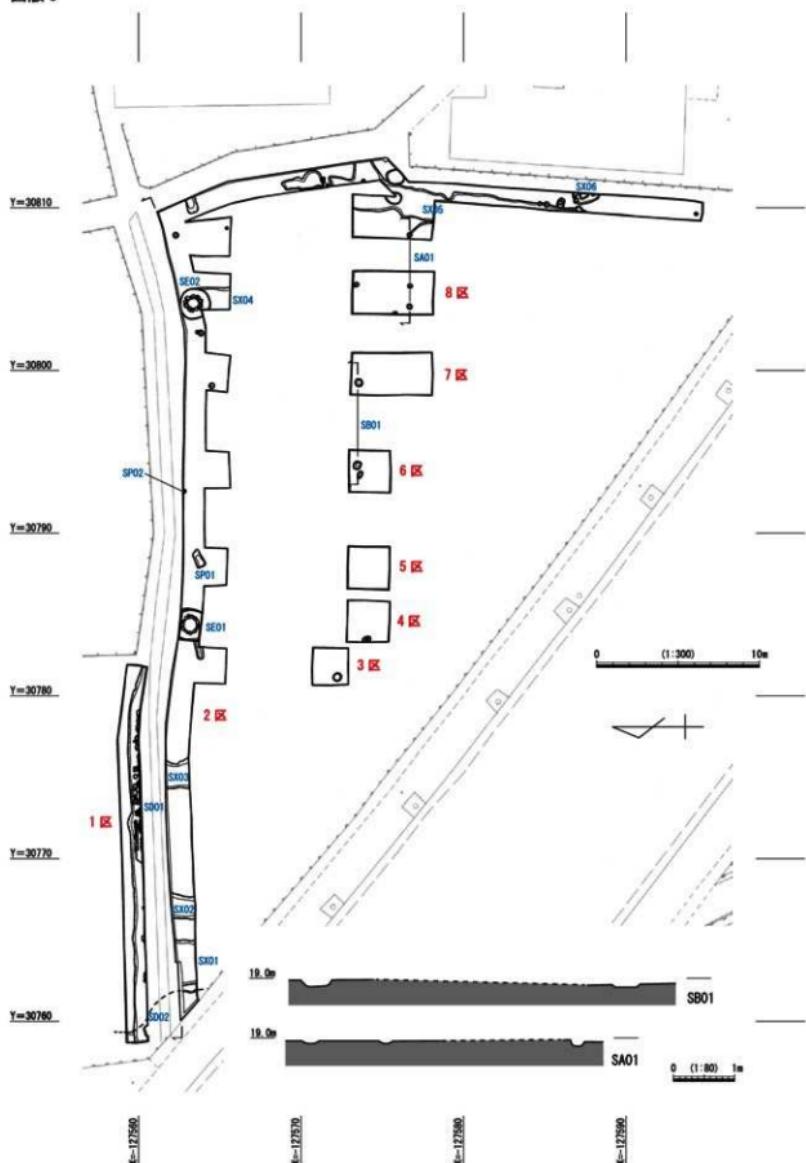


図4 調査区平面図・造構断面図

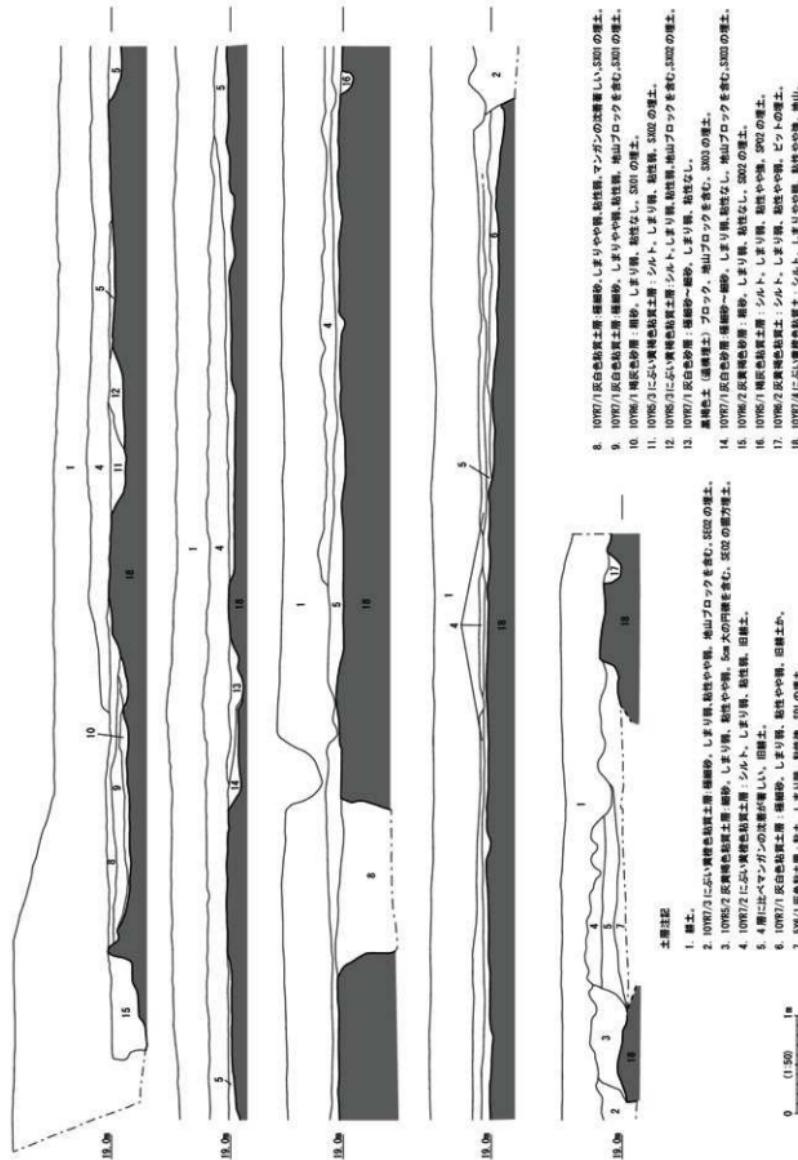


図5 2区北壁土層断面図 (S=1 : 50)

写真図版 1



調査区全景（西から）



1区全景（東から）



2区北辺全景（東から）



2区東辺全景（北から）



3-8区全景（西から）

写真図版 3



2 区北壁 SP02 周辺基本層序（南から）



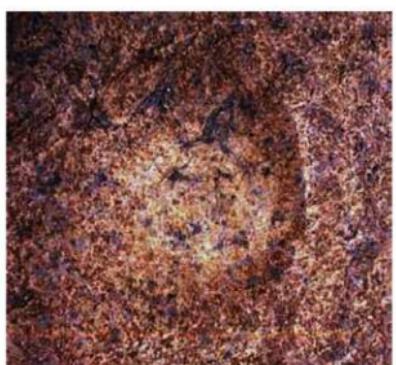
SX06 検出状況（南から）



SB01 柱穴検出状況（西から）



SX06 土層断面（西から）



SB01 柱穴完掘状況（北西から）



SE02 と SX04（南東から）



SX03（南から）



SE01（南西から）



SD01（東から）



辻井庵寺塔心礎（西から）



SD01（西から）



辻井庵寺井戸跡碑（西から）

報告書抄録

ふりがな	つじいいせき								
書名	辻井遺跡								
副書名	第31次発掘調査報告書								
卷次									
シリーズ名	姫路市埋蔵文化財センター調査報告								
シリーズ番号	第33集								
編著者名	黒田 祐介								
編集機関	姫路市埋蔵文化財センター								
所在地	〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元 414 番地 1								
発行年月日	平成28年(2016年)3月31日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	調査番号
つじいいせき 辻井遺跡	ひざといせき 姫路市辻井五丁目 759番3他	市町村	遺跡番号	34° 50' 58"	134° 40' 12"	2014.10.24 ~ 2014.11.5	213.44 m <sup>2</sup>	店舗建設	2014 0335
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物			
辻井遺跡	集落跡	古代以前	掘立柱建物 櫛 井戸 溝			弥生土器 須恵器 土師器 陶器			
要約	辻井遺跡の西端部において調査を実施し、掘立柱建物・櫛等を確認した。確認した遺構は、時期を決定するに足る遺物が出土しておらず、大半が時期不明である。ただ、掘立柱建物と櫛はその主軸がほぼ正方位を採用していることから、辻井廃寺創建以前のもの可能性がある。								

姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第33集

**辻井遺跡**

—第31次発掘調査報告書—

平成28年(2016年)3月31日発行

編集 姫路市埋蔵文化財センター  
 〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元 414 番地 1  
 TEL (079)252-3950

発行 姫路市教育委員会  
 〒670-8501 兵庫県姫路市安田四丁目 1 番地

印刷・製本 森山美術印刷株式会社  
 〒670-0016 兵庫県姫路市坂元町 60